

報道関係者 各位

2025年10月23日

取材のお願い

現代美術と古民家が出会う3日間

— 松山東雲女子大学 子ども専攻・増本教授と学生による作品展 「古民家“毛利家”におけるアートな作品展」開催 —

2025年11月1日（土）から3日（月）の3日間、松山東雲女子大学 子ども専攻の増本達彦教授（専門：立体造形）と学生たちによる作品展「古民家“毛利家”におけるアートな作品展 Drill-masumoto（ドリル-マスモト）と学生たち」を開催します。会場は江戸期の庄屋建築として知られる宇和島市三間町の旧庄屋毛利家（市指定有形文化財）で、開場時間は各日9時から15時30分までです。本展は、歴史ある古民家空間と美術作品の融合をテーマに、増本教授と学生による多彩な造形作品を展示します。

ポイント

1. 江戸時代の庄屋建築「毛利家」と美術作品が融合する独創的な展覧会
2. 学生が作品出展や会場設営に参加し、地域文化と学びが交わる新たな挑戦
3. 昨年の増本の個展から進化し、学生との作品展の形は今回が初開催

◆ 古民家×現代美術が生み出す、新しい表現空間

本展の舞台となる旧庄屋毛利家は、江戸時代後期の庄屋建築の姿を今に伝える貴重な文化財です。その歴史ある空間に、増本教授と学生による現代的な造形作品を展示し、「古」と「今」が出会う新たな表現に挑戦します。

増本教授は、地域の文化資源とアートを結びつける活動に力を入れており、昨年度も毛利家で個展を開催しました。今年は学生も作品を出展し、展示空間の設営にも携わるなど、学びと創造の現場が地域の文化財と交わる試みとなっています。

増本教授のコメント →→

学生たちと私は2025年5月、三間町の旧毛利家庄屋住宅「毛利家」を訪れ、住む人を見守ってきたものの存在や、自然と深く関わる生活に対してそれぞれの思いを持ちました。これらをうけて、この場所との関わりを大切にしつつ多様な素材・技法による作品発表の機会としたいと考えています。

詳細は別添の実施要領をご覧ください。

昨年の個展の様子



- タイトル：「古民家“毛利家”におけるアートな作品展
Drill-masumoto（ドリル-マスモト）と学生たち」
- 会期：2025年11月1日（土）～11月3日（月）
- 時間：各日 9:00～15:30
- 会場：旧庄屋毛利家（愛媛県宇和島市三間町是能419）
- 出展者：松山東雲女子大学 子ども専攻 増本達彦教授
学生5名（3年）
- 入場料：無料（予約不要）
- 共催：旧庄屋毛利家を守る会 松山東雲女子大学 子ども専攻 増本ゼミ
- 後援：愛媛県、愛媛県教育委員会、松山市教育委員会、宇和島市、宇和島市教育委員会 他

※ 学生の来場日や滞在時間は決まっておりません。取材をご希望の際は、事前にご連絡いただけますと幸いです。

◆ 社会的意義と今後の展望

地域の歴史や暮らしを映す文化財と、学生の創造的な学びが交わる本展は、「地域とともににある大学」の姿を体現する試みです。学生にとっては教室を超えた実践の場であり、地域住民にとっても身近な文化財の新たな価値に触れる機会となります。

本展の制作過程や作品の意図については、11月開催の大学祭にて発表する予定です。展示と発表を通して、地域の文化財を活かした学びと成果を広く共有します。

【お問い合わせ】 松山東雲女子大学・松山東雲短期大学 広報

松山市桑原3丁目2-1 電話：089-931-6211(代)Mail：kouhou@shinonome.ac.jp

※ 取材の際は事前にご連絡いただけますと幸いです。

古民家“毛利家”におけるアートな作品展 Drill-masumoto（ドリル・マスモト）と学生たち

実施要領

松山東雲女子大学人文科学部心理子ども学科子ども専攻 増本ゼミ担当 増本 達彦

【趣旨】松山東雲女子大学人文科学部心理子ども学科子ども専攻の増本ゼミは「造形活動ゼミナール」です。制作活動を通じ美しいものに感じる心や、イメージを具体化する力、多様な素材に応じた豊かな表現力を養い、保育者としての芸術性を培います。私たちは2025年5月、宇和島市三間町の旧毛利家庄屋住宅を訪れて、ここにしかないものを感じ取ろうとしました。長い時間ずっと住む人の生活を見守ってきたものの存在に思いを巡らすと同時に、古民家の生活が、自然と深く関わっているとも感じました。こうした思いを各自が多様な素材・技法で作品化し、毛利家という場との関わりを大切にした形での作品発表の機会といたします。

【会期】2025年（令和7年）11月01日（sat），02日（sun），03日（mon：文化の日）

（3日間　いずれも09:00～15:30）

【会場】旧毛利家庄屋住宅（毛利家） 愛媛県宇和島市三間町是能419

【搬入】2025年（令和7年）10月31日（fri）14:30 大学発 現地で16:00～18:00

【搬出】2025年（令和7年）11月04日（tue）10:00～12:00

【出品資格】2025年度増本ゼミ3年生であること

【出品料】不要 ただし、各自の作品を制作するのに必要な素材等は自己負担をお願いします。

【作品制限】目安として、平面ならばレンタカーのハイエースに積載できるサイズ

立体も同様（50cm立方くらい）ただし、展示の仕方もこれから決まっていくので、増本との話し合いのなかで決めていく。※増本は彫刻作品を3点ほど出展予定である。学生は毛利家における増本作品との調和を考えて展示していくことになる。

【注意事項】毛利家は歴史的に重要な宇和島市の指定文化財であるから、展示の際はテープで貼り付けたり、ピンを打ったりすることは厳禁である。また、管理者はいるが、施錠ができない。作品の管理には限界があることを承知してほしい。

会期中、出品者は可能な限り会場に居るようにしてほしい。展覧会では出品者が観客を出迎え、必要なら解説をするのが発表者として通常の対応である。

松山東雲女子大学人文科学部心理子ども学科子ども専攻 増本ゼミ

790-8531 愛媛県松山市桑原3丁目2-1 松山東雲女子大学内 図工室 TEL 090-1928-6274（増本）

共催/旧庄屋毛利家を守る会 松山東雲女子大学人文科学部心理子ども学科子ども専攻増本ゼミ

後援/松山東雲女子大学 愛媛県 愛媛県教育委員会 松山市教育委員会 宇和島市 宇和島市教育委員会

本展の趣旨

松山東雲女子大学人文科学部心理子ども学科子ども専攻の増本ゼミは「造形活動ゼミナール」です。制作活動を通じ美しいものに感じる心や、イメージを具体化する力、多様な素材に応じた豊かな表現力を養い、保育者としての芸術性を培います。私たちは2025年5月、宇和島市三間町の旧毛利家庄屋住宅を訪れて、ここにしかないものを感じ取ろうとしました。長い時間ずっと住む人の生活を見守ってきたものの存在に思いを巡らすと同時に、古民家での生活が、自然と深く関わっているとも感じました。こうした思いを各自が多様な素材・技法で作品化し、毛利家という場との関わりを大切にした形での作品発表の機会といたします。



270年にわたって守られてきた毛利家。足を踏み入れて、ここには静謐な時間が流れていると感じます。私はこの空間にずっといる眼には見えない存在について想像を巡らせました。水神様や竈（かまど）の神様などのこの家にいて、家族を守ってきた存在をイメージして彫刻作品を展示します。木と紙と石と萱でできた毛利家に、そしてずっとここに居続ける「何か」に私の作品が受け入れられるよう願いつつ、生命を感じさせる空間を提示したいと思います。2024年は個展形式での発表でしたが、この2025年はゼミ学生たちとのグループ展といたします。（増本 達彦 / Drill-masumoto : ゼミ担当教員 彫刻作品）



毛利家に足を踏み入れ、自然や270年の歴史を感じる中で私は小人がいるイメージを持ちました。この毛利家に誰よりも長い間暮らしている小人、そして受け継がれてきた方々の思いを背負って今もなお、どこかにいるその者たちのイメージを毛利家ならではのものや沢山の方の思いも込めて粘土のあたたかみを活かしながら丁寧に制作します。270年間きっと誰も見たことがない存在を昔の記憶を呼び起こすよう作品にし、皆さんに伝えたいと思います。

（Y.K. 紙粘土などを用いた立体作品）



毛利家に足を踏み入れたとき、私は安心やあたたかさを感じました。同時に幼い頃に曾祖父母の家へ親戚が集まり笑顔あふれる時間を過ごした記憶がよみがえりました。私にとってとても大切なこの思い出を胸に「ぬくもり」を感じる作品に仕上げていきたいと考えています。私の家族や親戚を親しみやすいカッパなどの姿に変え、絵の具で色鮮やかに表現した作品にしていきます。展示では、訪れた人が心穏やかに、あたたかい気持ちを感じられる空間になればと思います。（R.K. 絵画作品）



毛利家を訪れた際、茅葺き屋根の屋敷の空気や囲炉裏の香りに包まれ、時代を超えて受け継がれる神秘的な空間に触れました。その印象と地域に伝わる麦臼渦のカッパ伝説をもとに、あえて自然から遠い針金を用いた立体的な作品を展示します。屋敷の部屋や土間の空間を活かし、伝説がまるでその場に自然に存在しているかのように配置し、訪れる人が空間の神秘性や穏やかな気配を感じられる展示になればと思います。（K.T. 針金などを用いた立体作品）



初めて毛利家に足を運んだ時に、古くなった建物から昔ながらの温かさを感じました。この家ではどのような生活が行われるのか想像が膨らみ、心が浄化されたようでした。私は毛利家へ訪れた際に感じた温かさややわらかさを色砂を使った絵画作品にしたいと考えました。

作品を通してその温かさややわらかさを想像でき、心が浄化されるような展示になればと思います。（Y.T. 色砂を用いた絵画作品）



初めて毛利家を訪れたとき、私は大きな立派な屋根から迫力を感じるとともに、建物の中から外を眺めたときに聞こえる鳥のさえずりや風に揺られる木々の音、そしてのどかな風景から安心を感じました。

豊かな自然と毛利家に守られ、共生して暮らすさまざまな生きものをイメージして折り紙の技法を使った立体作品を展示します。毛利家のあらゆる場所にちりばめられた作品から、懐かしさを感じられるような展示になればと思います。（N.T. 折り紙や紙などを用いた立体作品）

ART EXHIBITION AT THE OLD FOLK HOUSE "MOURI-KE"

DRILL-MASUMOTO AND STUDENTS

古民家”毛利家”におけるアートな作品展

ドリル・マスモトと学生たち

共催：旧庄屋毛利家を守る会 松山東雲女子大学人文学部心理子ども学科子ども専攻増本ゼミ

連絡先：増本 達彦 (DRILL-MASUMOTO) masumoto@shinonome.ac.jp

後援：愛媛県 愛媛県教育委員会 松山市教育委員会 宇和島市 宇和島市教育委員会 松山東雲女子大学

2025/11/01sat, 02sun, 03mon (3days 09:00~15:30)

会場：旧毛利家庄屋住宅（毛利家） 愛媛県宇和島市三間町是能419

会場へのアクセス：松山自動車道三間ICを降りて、西へ車で約3分 案内標識があります